海外研究機関の紹介；

MTEC(National Metal & Materials Technology Center, Thailand) タイ王国金属及び素材開発センター(とタイでの研究開発の現状, パート 1)

行 宗 安 友*

2006 年 12 月に共に AWPP を開催するなど JSPP とは大変つながりの強い MTEC ですが、そこで働く日本人の目からみた研究開発の現状は今まで JSPP で紹介されていませんでした。ここでは、改めてその一端を紹介させて頂きながら、タイ国の変わったお話をお伝えしたいと思います。

MTEC は MOST (科学技術省) 傘下の NSTDA (科学技術開発庁) が管理する 4 つの開発センター「NECTEC (コンピューター・IT), BIOTEC (遺伝子工学), NANOTEC (ナノテクノロジー), MTEC (材料)」と一つの TMC (マネジメントセンター) の合計 5 つのセンターのうちのひとつで、材料の研究及び開発を行っている国立機関です。その MTEC で Advisor として 7 年間を働いた今、その当時と比べ日本の研究機関/大学、企業との関係が、想像を超えるほど強まったことに驚きを感じています。この JSPP の中心的活動をされているポリプラスチックをはじめ、Fujikura (もと藤倉電線)、島津製作所がすでにテクニカルセンター (TSC) や R&D を NSTDA の敷地内に開設しています。また今後も大手自動車部品メーカーやエレクトロニクスメーカーが TSC や R&D の開設を計画しています。これは今までタイ国を生産販売拠点としてのみ捉えていたけれども、多くの製造現場がタイへ移転したため、現場に接した開発や研究を行っていた日本企業として、①一部のテーマについてはタイで研究開発や技術サービスを進めざるを得なくなっている、②日本人だけによる研究開発では人材確保及び多様な考えを推進できにくくなっている、という理由かと推察しています。しかしながらタイ人とともに開発を進めるには非常に大きな壁を越えなければいけません。歴史、気候風土、伝統、価値観が大きく異なるからです。

歴史から見ると、どこの国からも大きな侵略や長期に亘って制圧された過去がないため、異文化を強制されたことがありません。このためよく言えば自尊心が強く誇り高いのですが、逆に言えば謙虚さが足りません。気候から見

ると大きな冷害や台風・地震がないので飢えや災害で傷ついたことがありません。このため将来の危険に対する予防やお互いに協力し助け合って備えをするという考えがありません。田畑では種を乱雑に撒くだけで年に 2 回も 3 回も米を収穫できます。種を撒きさえすれば、生育に適した太陽と適度な雨が自然に育ててくれます。ほとんどが平地です。ので苦労して山を開墾する必要もないのです。種を撒いたら後は寝て暮らせます。洪水で米が全滅したら、そばにあるマンゴー、ココナッツ、バナナその他栄養豊富な果物を食べていれば飢えで死ぬことはほとんどありません。(以上は少々極端な言い方になっていることをお許しください。) こういう歴史・風土の違う人たちと共同で研究開発を進めていくに当たっては、予想もしなかった部分で意見が食い違い、思わぬ壁にぶつかります。

私の職場である NSTDA/MTEC は、研究者が海外で博士号を取った超エリートの集まりですがそれでもなお国際的感覚からかなり異なる態度や考え方をする人がいます。ですから海外に出たことがない人々は、なおさらのこと、タイ人独特の考えを主張し、客観視することがありません。

余談ですが、例えばタイ語では英語の L にあたる文字が語尾に来たときこれを自動的に N に変えて発音します。また英語から来た文字は語尾を上げてタイ語と区別します。ですから Central をセンターン (↑) と読みます。(タクシーの運転手からあんの英語はおかしいといわれたときは参った！)

今回は NSTDA 全体の活動内容にエピソードを混ぜてお送りしたいと思います。

* Yukimune, Atomo
Advisor for Technical Policy
MTEC (National Metal & materials Technology Center)
114 Thailand Science Park, Paholyothin Rd., Klong 1, Klong
Luang, Pathumthani 12120
2008. 9. 26 受理